高嶺の花に口付けを
R18
小狐丸×三日月宗近

――今日も駄目だったか
簡単に見つかると思っていたが
現実は中々難しい物だな…小狐よ
――……
お前に会いたい
…見つけた…

そのまま私を導いてくれ――三日月
……
夢…か
小狐丸の声を聞いた気がするが…いよいよ幻聴まで聞こえるようになったか
疲れが溜まっているのかもしれんな――
何やら外が騒がしいな
ドタバタ
新しい刀が来たらしいぜ!
どんな奴だ?
長い銀髪に赤い瞳の太刀だって
!!

小狐！
小狐丸だな？
――っ！
あ…お前、記憶はあるか？俺が分かるか？
俺は――

会いたかったぞ
三日月…っ！
記憶なら
心配はいらぬ
久々に見た
お前の姿に見惚れて
気遅れしたのだ
あ！
三日月さんの
探してた刀、
見つかったんだね
ああ
兄弟みたいなモン
だしな、アイツら
小狐…
お前に会えるよう
ずっと念じてたぞ
私はその想いに
導かれてきたようだ
それより
三日月
もっとよく顔を
見せてくれ

さすがは天下五剣
やはりお前は昔と変わらず美しいな
同じ三条として誇りに思うぞ
クスッ
相変わらずだな小狐そんなに褒めても何も出ないぞ
笑うと愛らしい所も全く変わらぬ
これからはずっと一緒に居られるんだな
ああ三日月の傍に居るぞ

いいなぁ…僕も昔の仲間に早く会いたい…
うん…ありがとう鶴おじさん
あ⁉「お兄さん」の間違いだろ光忠！
すぐに見つかるさ俺に任せておけこれでも部隊長だからな
えぇぇっ⁉だって鶴さん僕よりかなり年上…
俺は永遠にお兄さんだ驚いたか！

全く眠れないまま
朝を迎えてしまった
………
三日月に触れた
あの日から
心が落ちつかない
一度は諦めかけた
恋心が——
走馬灯のように
頭を駆け巡る
昔と違い
今は触れる事が
出来る体がある
——お前に触れたい——
小狐～っ
起きてるか？
ドキッ

どうした?
今日は畑の内番をする日であろう早く着替えぬか
み、三日月…天下五剣の麗しさはどうしたのじゃ…!!
先ほどまでの妄想が撃破されてしまった!!
オシャレは苦手でな
この服いいぞ動きやすい通常服もこれにするかなぁ
駄目絶対駄目却下!
ところで…三日月は畑仕事出来るのか?
雑草取りぐらいは…
…なるほど
むぅ

さてやるか
……
三日月…
やはりお前が愛しい――
小狐、小狐
やめい！
気色悪いっ！
お前にはこっちの方が似合う、ほら
はははっ
私は三日月の笑顔が好きだ
共に居ると心が安らぐ
三日月も私と同じ想いなのだろうか――

やっぱり慣れない仕事は難しいな
小狐…？どうした、黙ったまま
疲れたのならそろそろ休むとしようか
昔と違って今はお前に触れる事が出来る
それは他の刀達も同じ事…
…三日月 私はお前を昔から好いておる
？俺も小狐の事は好きだぞ
そういう意味ではない
お前が欲しい
私のものになれ三日月
お前を誰にも触れさせたくない

お前を狙う奴が他にもいるのなら
闇落ちしてでもお前を奪い取ってみせようぞ
小狐…俺は…
天下五剣の尊厳を維持するために常に美しさと強さを強要され
部屋の奥底で静かに囲われてきた――
俺を求めて大量の血が流れる様を黙って見続けてきた
やがて俺の存在は守るはずの主の命までもを奪ってしまい――
凍ってしまった俺の心が小狐の言葉に共鳴している
…俺は恋を知らぬ世間という物もよく分からぬのだ
記憶はあっても心の破片が欠けてしまったようだ…すまんな

はぁ……
何だ何だ？落ち込んでるじゃないか。こいつは驚きだぜ
やれやれ…平和なジジイじゃ
可愛くねぇ狐だな！こうしてやる！
ぐしゃ
ぐしゃ
やめい！
んだと!?
どうせ三日月とケンカでもしたんだろ？
…ケンカではない
話せよお前の桜が散ってると戦闘で面倒だ
………

——なるほどなぁ でも三日月はお前が 本丸にまだ居ない時
一人寂しく 泣いているのを 見かけたぜ
心配せずとも 十分お前の事が 好きだろ
不安なのじゃ! 三日月は誰に 対しても 好きだと言うで あろう
余裕ない奴だな じゃあ 試してみるか?
小狐も鶴丸も 何をしておる そんな隅っこで…
お!
退屈だから本丸 抜け出して 花街でも行こうと 思ってな
三日月に内緒で 小狐丸と 二人きりで
何を…

――…っ
え……
ドキッ
三日月!? ちょっと待て
おい……どうしてくれる
何だ？いつものあいつなら笑顔で流すのに見ただろあの反応
協力してやったから明日の馬番は交代な！
あ
それだけお前には本気だって事さお前も鈍いな
三日月の機嫌取るのが大変じゃ…
…良かろう

三日月！
話を聞いてくれ
……
三日月！
ダッ
待てと言うておろう！
ザッ
さっきのは
誤解だと…
!!
ドッ
三日月!!
ズキッ
——っ
足が……
全く
危なっかしい
奴じゃ
やはりお前から
目を話せぬな

大丈夫か？
動けぬのなら抱き上げてやろうぞ
お、怒っておるかわいい奴じゃ‼
キュンッ♥
妬いてくれたのだな三日月よ
……っ⁉
自惚れるな！誰が妬くかくだらぬ
何処にでも勝手に行けばよかろう‼
では何故怒っておるお前らしくもない
！
それが恋心じゃ三日月

このモヤモヤする気持ちは恋心なのか…？
鶴が出掛けるのは何も思わなかったのにお前も一緒に行くのは嫌だった…
そうか…これが恋心
で、では俺とお前は両想いというやつか？
改めて真面目に聞かれると照れる……!!
そ…そうじゃな
ふむ…
でも両想いだからと言って
閨事はまだ駄目だ
どうして…
心の準備が出来たら恋文を送るそれまでは待て
何と愛らしいのじゃ私の三日月は!!

何世紀でも待ってやるから両想いの証として
口付けくらい許してはくれぬか？
…構わないが俺はどうすれば良い？
!?
め、目を…閉じておれ
息は？
してても良い…
ギュッ
ふむ…あいわかった
初めてなのか…？
ドキ
ドキ
……
長い睫毛が震えておる
愛らしい奴じゃ…

ずっと…憧れていた
愛しておるぞ三日月
ん……
し、舌が…⁉
――っ
ん…っう――っ
……
んんん……‼
い、息が出来ない限界――‼
三日月?
どうした⁉

…キスというのは
中々難しい物だな
呼吸が止まって
どうかなりそう
だったぞ…
慣れるまで何度も
私が教えてやろうぞ
明日から毎日だ
ところで
小狐は何故キスが
上手いのだ？
野生ゆえ
…答えぬのなら
恋文は送らぬ！
み、三日月⁉

落ちつかないから
眠れない…?
床が変わると
何やら眠れぬのじゃ
部屋の隅でも
構わぬから
お前の側で寝たい
駄目か…?
しゅん…
う…
何か可愛いな
いいぞ
一緒に寝ても
襲ったりは
するなよ
良いな?
ギュッ
あぁ
こ、これは
耳元で
聞こえる穏やかな
寝息——
……
動けぬ!!
鼓動が高鳴る
この気持ちは
おそらく愛情——
時折、愛しそうに
擦り寄る
小狐丸のしぐさに
トクン

ん……
小狐…？何を…っ──あ！
ゾクッ
やめ…っ
少しお前の体を調べてやろう
ビクッ
何もしないと約束した…のに──くっ
よせっ
ヌル…
んん…いかにも箱入りらしい反応じゃ
今の…お前に触られるのはい…やだっ
触られるのが好きではないのか？
──っ見るな！
ほぉ色も美しいな少し触れただけで良い反応じゃ

このまま最後まで抱いてしまうのも容易だが
ん！
う…っく
ビクンッ
っ！
もうしばらくはお前の初々しい反応を楽しむ事にするか
カプッ
お前が一度も愛してると言ってくれないのが悪いのじゃ
それとも…焦らしておるのか？
あっ！
や！
──っ‼
ふふ…早いなやはりお前は愛らしい
は…ぁ…っ

ふむ…やはり触るだけでなく物足りない
そんなもの舐めるな!!
次はじっくりその肌を味わうとしよう
――っ!!
!!??
ゆ…夢…?夢か、夢なんだな!?
ん…三日月…もう朝か?
カァッ
ど、どうした怖い夢でも見たのか!?
な、何でもないっ
泣いてるではないか かわいそうに 一体何が…
ちょっと後向け
?

「お前は一度も愛してると言ってくれない」
……
あ…愛しているぞ
ギュ…
小狐
——え?
寝る
三日月!! 寝起きでぼぉーっとしていたからもう一度言ってくれ
嫌だもう眠い
三日月——っ

高嶺の花に
口付けを